

これだけはぜひ守りましょう!

安全運転のために

★腰ベルトは

いっぱいひきだして腰骨の位置にピッタリと装着しましょう。



腹の位置にかけると万
のとき身体にくいこみ危
険です。

★ヘッド・レストの位置は

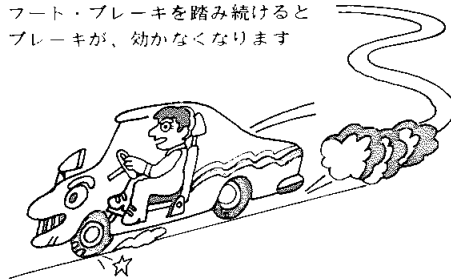
ヘッド・レストとの間にはぎりこぶしの幅以上あけないようにしましょう。



ヘッド・レストとの間
隔が多いと万のとき
危険防止に役立ちませ
ん。

★長い坂道を下る場合は

エンジン・ブレーキを活用しましょう。
フット・ブレーキを踏み続けると
ブレーキが、効かなくなります

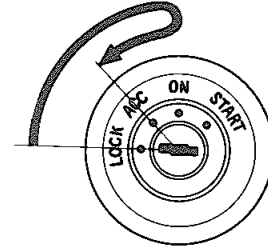


エンジン・スイッチをLOCKの位置にしないでください。
ハンドルがロックされているとハンドルがきれなくなり危
険です。

★エンジンを停止して移動する場合は

(けん引される場合など)

エンジン・スイッチは一度ONにしてからAC
の位置にしましょう。

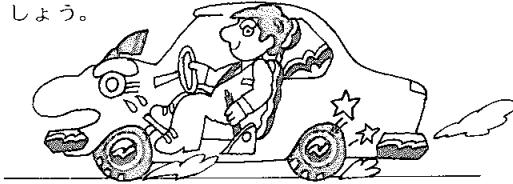


LOCKの位置
にして万一ハン
ドルがロックさ
れているとハン
ドルがきれなく
なり危険です。

故障しないために

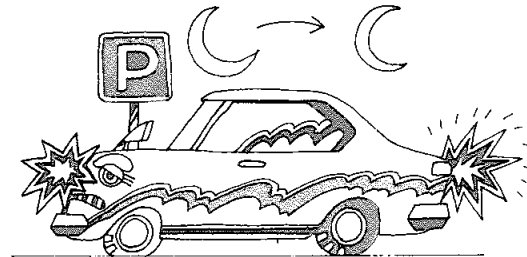
★パーキング・ブレーキ・レバーは

走行する前に必ず確実にもとの位置までもどし、インジケーター・ランプが消灯するのを確かめましょう。



ひいたまま走行するとひきずりを起こしブレーキが効かなくなります。

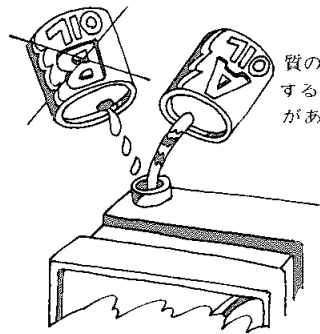
★エンジンを停止してランプ類を使用するときはバッテリーは完全充電でも、エンジンが停止していると消耗がはげしいものです。パーキング・ランプ、ハザード・ウォーニング・ランプなどは必要以外には、使用しないように。



長時間使用はバッテリーあがりの原因になります。

★オイルの補給は

同品質かまたはそれ以上のオイルを使用しましょう。



質の異なったオイルを補給すると性能が低下する恐れがあります。

★寒冷時になる前にラジエーターには

(不凍液の注入の項目参照)

気温に応じた適当な濃度の不凍液またはロングライフ・クーラントを入れましょう。

ただし、ロングライフ・クーラント注入済みの車両は入れ替える必要はありません。

★ブレーキフルードを補給するときは



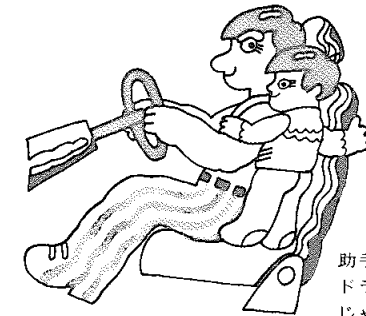
タンク内にゴミがはいらないように充分注意しましょう。

指定のブレーキフルードを必ずご使用ください。ゴミがはいるとブレーキは効かなくなりクラッチは故障します。

お子様を乗せるとき

★なるべく保護者と一緒にリヤ・シートにすわらせましょう。

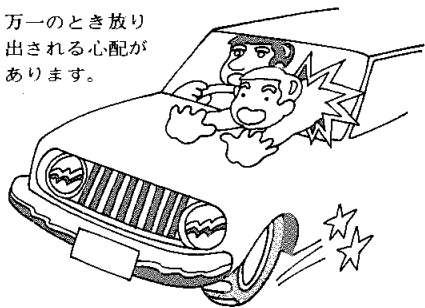
助手席ではドライバーのじゃまになり大変危険です。



助手席ではドライバーのじゃまになります。

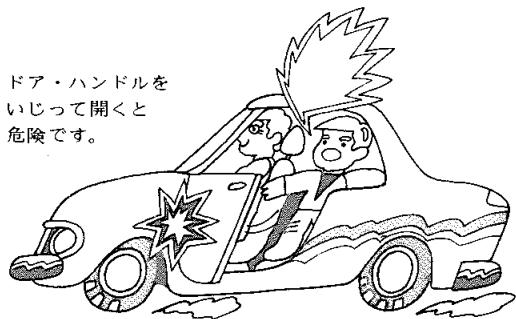
★必ずリヤ・シートにすわらせましょう。

万一のとき放り出される心配があります。

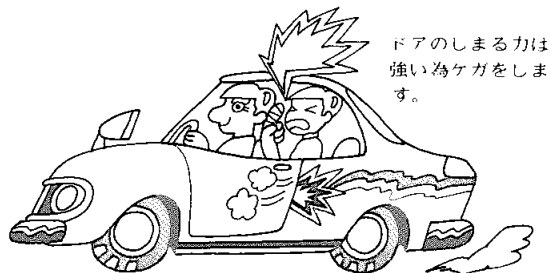


★ドア・ロックは確実にしましょう。

ドア・ハンドルをいじって開くと危険です。

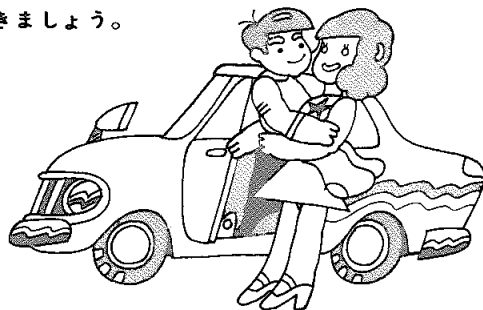


★ドアの開閉で手をはさまないようにしましょう。
必ずおとながドアの開閉をしましょう。



ドアのしめる力は強い為ケガをします。

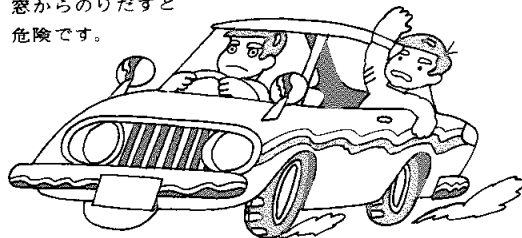
★車から離れるときは、子どもと一緒に連れてゆきましょう。



思いがけない事故が起きる場合があります。

★窓の開閉はおとなの手でしましょう。

窓からのりだすと危険です。

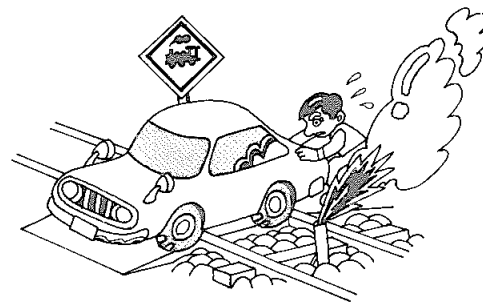


緊急処置

★踏切りなどで始動できなくなったときは、スターターで抜け出しましょう。

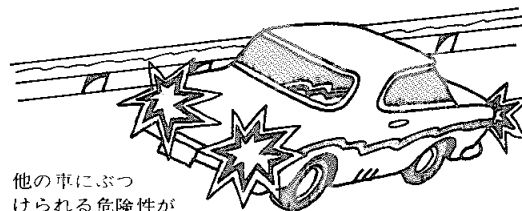
それでもだめなときは踏切に装備されている非常ベルを押すか、保安災筒で合図してください。

大きな事故を起す危険性があります。



★万一、故障したら

車を路肩に寄せハザード・ウォーニング・ランプを点滅させます。



他の車にぶつかけられる危険性があります。

★遠出して万一故障し、なおせないときは整備手帳のサービス網をご覧になって、あなたの車の最寄りの取扱い販売店へ連絡しましょう。

